

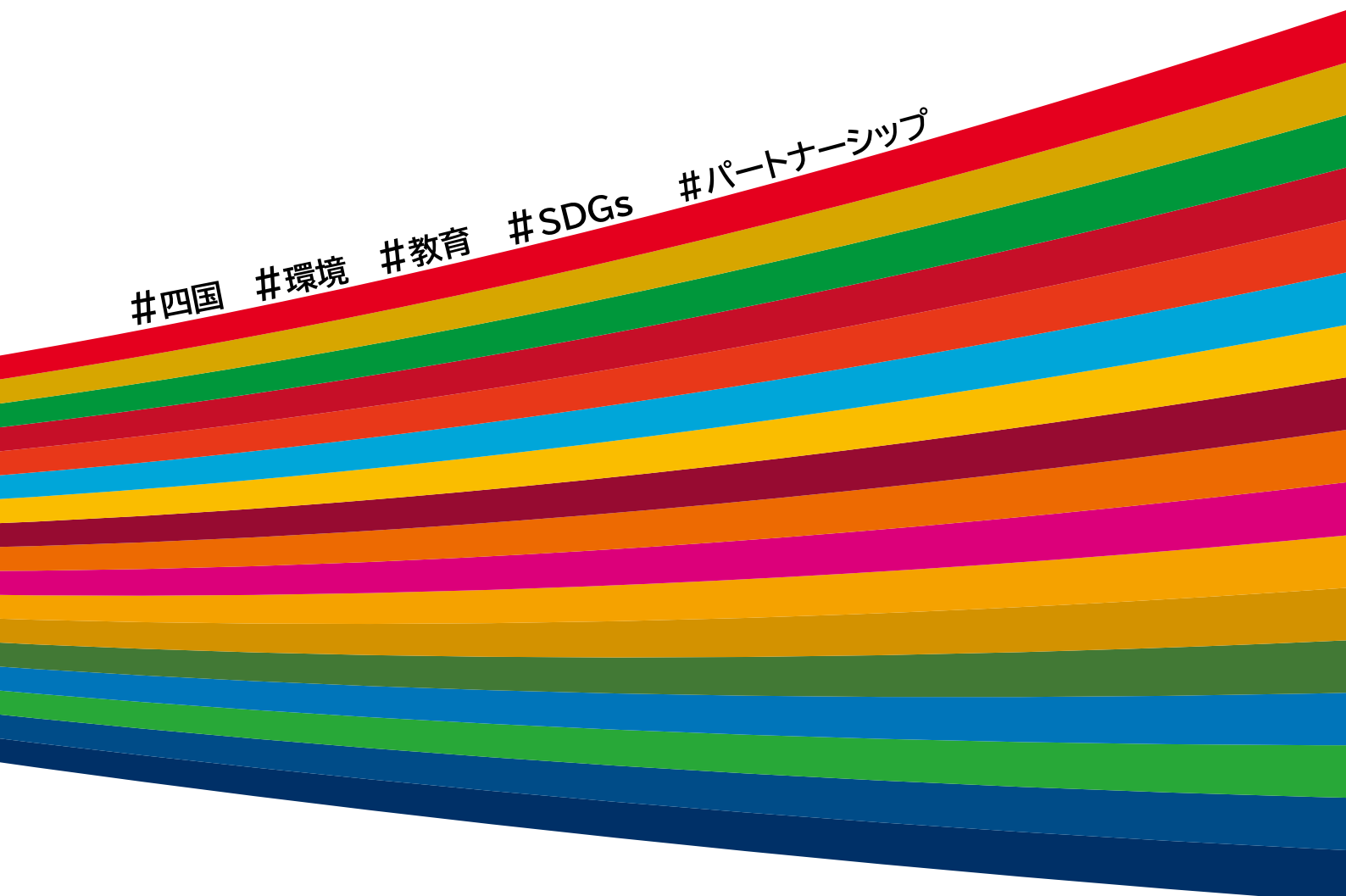
With

エポ
四国EPO
四国ESDセンター
イーエスディー

活動レポート
2022-2023

[ウィズ]

#四国 #環境 #教育 #SDGs #パートナーシップ



With 四国

[オンライン開催]

- 地域脱炭素推進フォーラムin四国
→4ページ
地球環境基金助成金説明会
→9ページ
- 四国ESDバーチャル大学
→11ページ

2022年度に、**四国EPO**と**四国ESDセンター**が
関わったイベント等のうち、
この冊子でご紹介しているものを掲載しました。
詳細は各ページをご覧ください。

※①～⑳は地域ESD拠点(下記)の場所です。



ローカルSDGs四国表彰
大賞/ユース部門賞
愛媛県立長浜高等学校
→6ページ

ローカルSDGs四国表彰
チャレンジ部門賞
愛媛大学附属高等学校 理科部プラガールズ
→6ページ
愛媛デスク ●⑧●

⑰●
えひめ森林公園
ESDプログラム
→13ページ

●
ローカルSDGs四国表彰
審査委員特別賞
特定非営利活動法人 由良野の森
→6ページ

③⑦
四国ESDフォーラム2023
→12ページ
①⑳●



登録年 地域ESD拠点 →14ページ

2017	①新居浜市教育委員会
2018	②高松ユネスコ協会 ③IKEUCHI ORGANIC株式会社 ④株式会社ハレルヤ
2019	⑤株式会社土佐山田ショッピングセンター ⑥室戸ジオパーク推進協議会 ⑦株式会社平野 平野薬局 ⑧(特非)えひめグローバルネットワーク ⑨うどんまるごと循環プロジェクト
2020	⑩一般社団法人そらの郷 ⑪パンゲアフィールド ⑫株式会社井上組
2021	⑬株式会社相愛 ⑭一般社団法人ノヤマカンパニー ⑮善通寺こどもエコクラブ ⑯(特非)どんぐり王国
2022	⑰えひめ森林公園
2023	⑱株式会社タイチ ⑲公益財団法人大阪YMCA YMCA阿南国際海洋センター ⑳新居浜市生涯学習センター

⑭⑯●四国ESDバーチャル大学
→11ページ

⑱●地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業
愛媛県鬼北町 →3ページ



●地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業
高知県大月町 →3ページ

- 西日本放送「さわやかラジオ」 →13ページ
- かがわ国際フェスタ2022 →13ページ
- 香川型教育メソッド研究会 →13ページ
- 令和4年度気候変動講演会 →8ページ
- かがわ環境活動団体交流会 →8ページ
- 令和4年度環境活動展 →9ページ
- 令和4年度ゼロカーボンシティ展 →9ページ
- C7勉強会 →9ページ

②⑨

● ○ 四国EPO・四国ESDセンター

ローカルSDGs四国表彰
審査委員特別賞
株式会社パブリック
→6ページ

● 土曜授業 →13ページ

● 四国ESDまつり
→9ページ

④

○ 徳島デスク

⑫



⑪

ローカルSDGs四国表彰
地域課題解決部門賞
株式会社 那賀ウッド →6ページ

● ●

⑬

四国 森里川海推進ネットワーク形成会議
→7ページ



⑤

⑬ ○ 高知デスク

⑥

四国EPOって？

「しこくえぼ」と読みます。EPOは「Environmental Partnership Office（環境パートナーシップオフィス）」の略称です。

「環境省地方環境パートナーシップオフィス」は、環境教育等促進法によって、現在、全国8か所に設置されています。四国EPOは2007年1月にスタートしました。

環境に関するいろいろな課題を解決するためには、地域でのパートナーシップが重要です。環境省はその拠点づくりを進めてきました。四国EPOは、地域のNPO/NGO・企業・行政・市民等が主体的に関わるための拠点として、情報の発信や環境教育のサポート、また環境についての相談やコーディネートなどを行っています。

四国ESDセンターって？

正式名称は「四国地方ESD活動支援センター」。EPOと同じく全国8か所にあり、四国では全国に先駆けて2017年7月1日にスタートしました。関係する省庁が民間団体との連携事業として官民協働で開設したプラットフォームです。

ESD（イーエスディー）は、「Education for Sustainable Development」の頭文字で、「持続可能な開発のための教育」と訳されています。

四国ESDセンターでは、四国4県で行われるESD活動を支援したり、人材育成、情報収集・共有、学びあいの場づくり、ネットワークの構築などを行っています。同時に、全国や世界とのつながりを活かして、持続可能な社会を目指します。

海や山を眺めながら歩いていくと、見えてきた。 ふたつの町の動きと、その先のストーリー。

山業プラスαで大月の町を元気にする。

四国の西南端、高知県大月町。柏島など海の観光スポットがよく知られていますが、それを守っているのが豊かな山の自然です。そこで活動続ける人々が目指すのは、山と関わる人々がぼちぼち暮らしていける町。事業の活動テーマは、『複数のぼちぼち山業で豊かな生活スタイル』です。

資源を活かし、守りながら活動してきた個人をつないで、2022年度には山に興味を持つ人を増やすことに重点を置いて動きました。広葉樹活用学習会、チェーンソー安全講習、薪の販売講習会、自伐型林業研修、森のようちえんなどなど。

四国EPOは、これらを進めている人たちの集まりに参加して、相談に乗ったりアドバイスしたり…課題を解決するための支援を行っています。

ほぼ一年経って、事業化できそうなものが出てきた一方で、まだ方向の定まっていないものもあります。個人の活動をつないで大きな動きにすれば、生産物の販路を広げたり、もっとたくさんの人に知ってもらうこともできます。それらをどう実現していくか、中心メンバーといっしょにあれこれ話しながら前に進めています。次の年度もあらゆる機会を通して関わっていき、町の活性化に貢献できればと考えています。

令和4年度 環境で地域を元気にする地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業
活動におけるテーマ『複数のぼちぼち山業で豊かな生活スタイル』
活動団体名:NPO法人大月地域資源活用協議会 活動地域:高知県大月町



ミーティングの様子。

大月町産、土佐備長炭。

新スポットを起点に、人の流れを鬼北町へ。

令和4年度 環境で地域を元気にする地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業
活動におけるテーマ『コワーキングスペースを起点とした関係人口の拡大』
活動団体名:エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社 四国支社 活動地域:愛媛県鬼北町



ミーティングの様子。



鬼北町における人流分析。

全国で唯一自治体名に「鬼」があり、鬼をキーワードにしたまちづくりでも知られる鬼北町。同町とのDX推進連携協定を基盤に、エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズが活動主体となり、2022年5月に開設されたコワーキングスペースwarmth(ワームス)の活用による地域活性化に取り組みました。

柱のひとつは「地元で活躍するさまざまなプレーヤーとの協働に向けた相互理解の場づくり」です。町職員、地域

おこし協力隊、事業者、NPOなどが、町の魅力、活動、課題、やりたいことを出し合い、地域資源を把握し、その担い手と知り合う機会になりました。町の未来について思いを話し合う場はなかなかなく、それぞれに気づきが多かった様子です。さらに、地域資源などのつながりを書き出して関連図(マングラ図)を作り、今後もどんどん書き加えていって、ありがたい未来への筋道を探る予定です。

もうひとつの柱は、ビッグデータ活用による「鬼北町における人流分析」。

町に来る人の約8割が日帰り客で、その多くが同じ愛媛県内からであることなどがわかりました。条件を設定してデータを分析することができるので、イベントなどの企画の際に有効活用できそうです。

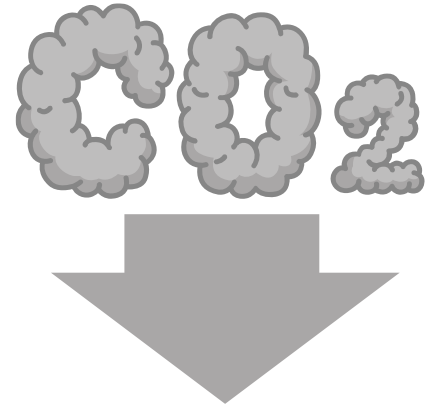
この事業の成果は、2023年度中に発足が計画されている協議会に受け継いでいく方針です。

「ビジネス×脱炭素」、四国のリアル。 高密度のフォーラムを開催し、参加者満足度は88%！

地域の先進事例に興味津々。活発な質疑応答が行われました。

全世界で待ったなしの「脱炭素」。日本でも、温室効果ガスの排出を2050年までに実質ゼロにする「カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現」を目指すことを政府が宣言しました。日々生活している私たちはもちろん、ビジネスの世界においてもいろいろな業界で対応が求められています。

このフォーラムは、脱炭素経営を進めていく上で必要なことはなにか、具体的にどうすべきかなどについて、理解を深め、行動できるよう開催しました。すでに実践されている具体的な事例紹介や質疑応答などによって、オンラインながら大いに盛り上がりました。



地域脱炭素推進フォーラム in 四国～成長とビジネスチャンス拡大に向けた脱炭素経営・SDGs経営とは～
共催：ローカルSDGs四国事務局(中国四国地方環境事務所四国事務所・四国EPO)・四国財務局・四国経済産業局
日時：2022年7月22日(金)14:00～17:00 会場：オンライン

当日紹介された先進事例

「田舎の小さなてぶくろ屋さんが始めた SDGs理念に基づくデザイン経営」

福崎 二郎さん（株式会社フクシン 代表取締役社長）
（一般社団法人エンづくり研究所 代表理事）
【SDGs・脱炭素の取組】

会社の屋上に設置した太陽光パネルで得た電力と購入した非化石証明書付の再生可能エネルギーで100%社内の電力を賄っている。新ブランド「ecuvo,」では廃棄される服、糸やバットボトルを再生して作った糸を使用するなどサステナブルな取組を行っている。

「環境対応型ホテルに挑戦」

新山 富左衛門さん（株式会社古湧園 代表取締役社長）
【SDGs・脱炭素の取組】

「ホテル古湧園 遥」は、愛媛初のZEBのホテルで、従来工法の建物とくらべ1次エネルギーを61%削減できる施設。太陽熱集熱システムとヒートポンプユニットでお湯を作り館内に供給、大幅なCO2の削減に貢献。BELS(※)認証で五つ星を獲得。再エネ100宣言RE Actionにも参加。その他、脱プラの推進、災害に強い組織づくりなどSDGsの取組も推進。

「SDGsパートナーシップと循環型リサイクルの実践」

島 大樹さん（株式会社日誠産業 専務取締役 営業本部長）
（きせきれい株式会社 取締役サーキュラーエコノミー隊隊長）
【SDGs・脱炭素の取組】

株式会社日誠産業は1970年3月に徳島県阿南市に創業し、古紙再生パルプ製造販売 製紙原料選別加工販売を行う。FSC®-CoC認証やエコアクション21の認定取得。

きせきれい株式会社は、徳島県上勝町とSDGsパートナーシップ・アライアンスを結んだ株式会社日誠産業より、環境・SDGsの取組をさらに深めるために独立した会社。具体的には、牛乳パックや廃棄古紙と廃プラスチックを融合させた新素材や古紙を配合した紙糸でアップサイクル商品の開発などを行う。

「SDGs・脱炭素の取組」

北 泰子さん（高知機型工業株式会社 取締役副社長）
【SDGs・脱炭素の取組】

会社目標にSDGsを掲げ、グループ目標、個人目標を設定して推進。自家消費型の太陽光発電機、大型の蓄電池を設置し、電力の約3分の2を太陽光でまかない、昨年度は87tの二酸化炭素の削減を達成。さらに、産業廃棄物の削減も積極的に実施。

※BELS:建築物省エネルギー性能表示制度

具体的な質疑応答が、脱炭素のタネに！

社内に浸透させる方法は？

費用対効果は？

Z世代に選ばれた事例は？

ZEB導入でお客様の反応は？

最初のとりかかりの事例は？

役員に理解してもらう工夫は？

社外から社内への影響は？

排出量半減の具体的取組は？



2021年2月設立の
新しいプラットフォーム
なんだって。

エルエス
LS四国って
「ローカルSDGs四国」の略称で

「ローカルSDGs」って？ その目的は？

言葉そのまま、ローカルでSDGsを実践することです。それを目指すのが、環境省の提唱する「地域循環共生圏」という考え方。難しそうな名前ですが、こちらそのまま、地域の資源を活かして循環させ、地方や都市が支え合うことです。もう少し詳しく説明しましょう。

地域にはいろいろな課題があります。環境・経済・社会、それぞれが個別に対応しようとするのは、なかなか難しいものです。問題の根っここのところで複雑に絡み合っていますから。しかし、関係者がお互いの話を聞いて視点を変えてみれば、課題を同時に解決する方法が見えてくるはずですよ。

たとえば・・・役に立たないものと思われてきたもの、捨てるにもお金や労力がかかるもの、それが資源として生かせるものだとわかったらどうでしょう。環境の問題も、社会の問題も解決し、お金も人もまわるようになります。

そんな事例を地域でどんどん創っていこう(地域循環共生圏＝ローカルSDGsの実践)、これからもずっとより良い方向へ環境・経済・社会を続けていこう、そのためにみんなが集まれる場をつくろう、それがLS四国なのです。

いろいろなジャンルの方々が、たくさん集まれば集まるほど、難しい課題に対応できます。そこで、会員募集！

LS四国 新規会員募集中！

情報収集・共有・発信ができます！

・補助金、SDGs・地方創生等の取組の情報を収集・共有・発信できます。

マッチング・仲間づくりができます！

・課題解決、取組促進にあたり、シーズを持った方と出会いの場を持てます。
・分科会活動で一緒に取り組む仲間ができます。

会員登録は下記・QRコードから！

https://ls459.net/?page_id=51
※または「入会申込書」に必要事項を記載の上、LS四国事務局 info@ls459.net までご提出ください。

LS四国事務局は、中国四国地方環境事務所四国事務所と四国環境パートナーシップオフィスが運営しています。



これらすべてを
会費無料で！

現在の会員数 176！

2023.3.20時点(個人会員含む)

- 企業・金融機関・その他関連団体 97
- 市民団体・NGO/NPO・その他団体 33
- 自治体・政府関係機関・公益法人等 38
- 大学・研究機関・教育関連機関 4

いろいろなジャンルの
方々が集まっています！

アクティブな分科会！ 現在6つが活動中。

LS四国は単なる大きな集団ではありません。目的に向かってどんどん進む、その原動力となっているのが「分科会」。地域の課題をどう解決していくか、そのためにどんな仲間が必要か。メンバーのみが利用可能なツール「LS四国 kintone(キントーン)」を使って、情報収集・発信、意見交換しながらアクティブに活動しています。分科会はローカルSDGsの実行役！ それぞれが自立して運営されています。

四国ESDチーム

四国のESD拠点とともにローカルSDGs達成に貢献していきたい、という思いで活動中。拠点を増やし、つなげることで、ESDの認知度を高め、地域のESD人材をどんどん増やしています。またイベントにも積極的に関わっています。



ワークショップの様子。

地域エネルギー分科会

四国4県の中小企業家同友会環境経営委員会と市民が中心になって活動中。再生可能エネルギーの調査や実践(写真)、学習会開催などを通して、事業化への道を進んでいます。四国内、地域内の資源を使ってエネルギーも経済も循環させましょう。



今治市乃乃万地区
再生可能エネルギー。

**多文化共生型の
減災社会づくり分科会**

四国では、地域防災の担い手が減り、高齢者、外国人といった災害弱者が増加。これらの課題を解決するために、災害発生時に活躍できる人材の育成や、関係者のネットワーク強化などを進めています。



防災・減災のワークショップやセミナーを開催。

**SDGs事業
促進検討分科会**

2022年4月に設立。愛媛県に本支店のある金融機関が協働して、定量的な評価基準の考え方を整理し、どの金融機関も同じ目線でSDGsへの取組を評価できるスキームを検討中。今年度は環境省の事業を活用し、地元企業による地方創生SDGsに向けた取組を把握・支援するための「共通のものさし」および「ヒアリングシート」のプロトタイプを作成しました。

**南海トラフ地震
香川液状化対策
コンソーシアム**

2022年7月に設立。液状化メカニズムを学び、関連の最新技術やサービスを紹介して、防災意識を高めることを目的に活動しています。9月に液状化メカニズムなどについてセミナーを実施しました。2023年は、関連技術の検証、学生に向けた技術体験会や、技術セミナーの開催を予定しています。参加しやすい体制づくりや人材育成に取り組みます。

**四国の奥山自然再生
協議会準備会**

2023年2月に設立。四国の奥山再生をボトムアップで進めるためのセミナー等を開催予定。参画する人々によって、「奥山再生」のノウハウが共有され、四国内で森づくりの活動が自発的に行われていき、「自然再生推進法」のもとで50年後の社会構造や環境をイメージした自然再生協議会を立ち上げるための仕組みづくりに取り組んでいきます。

なんですか？

ビジョンは
「いのち輝く、
青い国・四国を次世代へ！」



四国全域の「ローカルSDGs」関係者が集う場です。

魅力ある「持続可能な四国づくり」につながるSDGsのアクティビティが、毎年「ローカルSDGs四国表彰」に集まります。2022年度、第2回受賞団体はこちら！

LS四国では、「LS四国表彰」として毎年魅力ある「持続可能な四国づくり」につながるアクティビティを募集しています。2022年度は第2回を開催。2022年12月1日(木)～2023年1月6日(金)に応募を受け付けました。企業、NPO、高校など幅広い団体から応募があり、その中から計6団体を選定。表彰式では基調講演と事例発表、表彰を行い、オンラインでも配信しました。



ローカルSDGs四国大賞 / ユース部門賞 愛媛県立長浜高等学校 (愛媛県) 「長高水族館」



行ってみたいと思わせるすばらしい取組。地域への愛、自分達の研究にもつながっていく。未来に向けて、地域活性化にも貢献！

地域課題解決部門賞

株式会社那賀ウッド (徳島県) 「木や森林を活用した林業6次産業化事業」

豊富にある自然資源と新素材を掛け合わせた点、成果の人材育成への還元、製品の発展性期待大、の三本柱が受賞ポイント！



チャレンジ部門賞

愛媛大学附属高等学校 理科部プラガールズ (愛媛県) 「瀬戸内海のマイクロプラスチック汚染調査とその対策に向けた研究」

海洋プラスチックゴミという大きな課題に対して、高校生らしいフィールド調査と科学的なデータを結び付けたチャレンジがすごい！



審査委員特別賞

株式会社パブリック (香川県) 「SDGsを通して持続可能な世の中を次世代に繋げていく社会作り」

本業の中での精力的な活動がSDGsにつながっている。地域を巻き込み、本業にも活かされている。まわりへの影響力も大きい！



審査委員特別賞

特定非営利活動法人由良野の森 (愛媛県) 「ブナの森づくりプロジェクト」

四国において非常に重要な取組。必要最小限の努力と手間で、多様な人を巻き込んでいる活動。広がりも期待できる！



2023年度に次回LS四国表彰開催！

2023年度もLS四国表彰を開催！ 魅力ある「持続可能な四国づくり」につながる、SDGsのアクティビティを募集します。会員以外も応募OK！ 募集要項が決まり次第、ホームページやチラシ等でお知らせします。

LS四国の最新情報を発信中！

LS四国では年に2回、ニュースレターを発行。その時点での最新情報をお伝えしています。またホームページも随時更新中。会員情報、分科会情報、イベント・助成金等情報、LS四国表彰受賞団体紹介等、LS四国全体を把握できる内容です。



四国の森里川海や生きものたちは、今どんな感じ？ 講演や見学、現場からのレポートで、まずは知る。そしてつながる。



橋本林業の山林。人の生業と森の生きものの暮らしが共にうまく成り立っています。

意見交換では、OECMをどう活用するか、他の分野との連携、担い手の確保など、課題解決について話し合いました。

「NPO森からつづく道」松井さんの発表の様子。レッドデータブックが分厚くなりすぎてついに立ってしまっただけ、なんというお話も。笑ってしまったけど、笑えない…。

四国 森里川海推進ネットワーク形成会議、開催。

2022年11月18日、徳島県の山間の温泉宿に約10名が集い、ウェブからは約20名が参加。総勢30名以上が会しました。

この会議の背景には、環境省が立ち上げた「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクトがあります。目指しているのは、国民全体で「自然資源（森里川海）を豊かに保ち、その恵みを引き出すこと」「一人ひとりが、森里川海の恵みを支える社会をつくること」。全国的な動きが進む中、ここでは四国のOECMに関わりのある人たちが情報を交換し合い、さらなる発展への糸口を探りました。

そして翌日。クルマで20分弱のところにある橋本林業さんへ11名が訪れ、見学しました。立派なスギにシイの高木が混じり、低層にクロモジが見られる明るい森林をみんなで歩きながら、橋本林業さんの説明を受けました。大きな特徴は、高密度に整備された作業道。木材を運び出しやすいのはもちろん、斜面の強度を保ち、水の流れにも配慮して作られています。

四国がこれからもずっと自然豊かで、生きものたちが守られ安全に暮らせるように。参加者のそんな思いが、この先へとしっかり引き継がれていきます。

四国 森里川海推進ネットワーク形成会議

「生物多様性保全の新たな展開を探る！新しい保全地域・OECMとは」

主催：ローカルSDGs四国（LS四国）

I 生物多様性保全推進に向けた新たな戦略を考える

日時：2022年11月18日（金）13:30～16:30

会場：もみじ川温泉（徳島県那賀町）

・30by30目標の達成に向けた、新たな認定制度「自然共生エリア」（OECM）について

・基調講演「新たな保全地域OECMとは？地域にOECMを創出するために」

・四国の森里川海の現場から、生物多様性保全に資する取組の報告

森：徳島「橋本林業の施業による森林環境調査報告」

里：高知「農地の生物多様性保全と有機農業の優位性について」

川（ため池）：愛媛「ため池管理によって保全される里地の生物多様性」

海：香川「人材育成から展開する『かがわの里海づくり』」

II 橋本山林 現地見学

日時：2022年11月19日（土）9:00～11:00 会場：橋本林業（徳島県那賀町）

で、OECMってなんなの？

さらっと登場したこの言葉は、2010年に日本で生まれたまったく新しい自然を守る方法です。そのまま「オーイーシーエム」と読んでください。

Other Effective area-based Conservation Measuresの頭文字です。

直訳すると「その他の効果的な地域をベースとする手段」。森里川海の話では「保護地域以外で生物多様性の保全に役立つ地域」と置き換えるといいでしょう。すでに保護されている地域ではなく、本来の目的に関わらず生きものたちの命のつながりが安全に保たれているところ。たとえば、里地里山や都市にある公園、緑道、企業が持っている緑地、お寺や神社の林、河川敷などなど。建物の屋上緑化も当てはまりますね。

「30by30」と「自然共生サイト」もトレンドワードに!?

このふたつの言葉は、これからOECMとセットでよく出てくるはず。難しい話ではないので、覚えておいて損はありません。

・30by30（サーティ・バイ・サーティ）

2030年までに陸と海の30%以上を自然環境エリアとして保全する目標です。30年までに30%、で30by30。2021年のG7サミットで各国が約束しました。この目標達成に、OECMの貢献が期待されているというわけです。

・自然共生サイト

生物多様性を守ることに役立っているとして認定された場所。2023年度から環境省が認定する仕組みを始めます。その中から保護地域と重なっている場所が除かれて、OECMの国際データベースに登録されます。

現地見学した橋本林業さんは、仕組みが始まる前の試行・検証段階で参加しています。

※環境省ホームページ掲載文（<https://www.env.go.jp/nature/morisatokawaumi/project.html>）と資料（<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/documents/flyer30by30.pdf>）より抜粋・編集して作成。

アラスカで活動する写真家、松本紀生さんの講演を通して。

令和4年度気候変動講演会

「気候変動最前線」

～炭鉱のカナリアとしてのアラスカ～

アラスカで写真家として活躍する松本紀生さんに、撮影した写真やエピソードを通して、アラスカの雄大な自然、迫る気候変動の影響などについて講演していただきました。

松本さんや彼の写真、アラスカの自然に興味を持つ人が、この講演をきっかけに環境問題に関心を寄せてくれるとうれしいですね。人が集まることで、つながりや広がりも期待できます。

でも、なぜわざわざ四国EPOが主催団体のひとつに入っているのでしょうか。実は「つなぎ、つながる」という目的があるのです。講演者やお客さんとのつ

ながりはもちろんですが、「他の主催者とのつながり」という意味もあります。このイベントで、四国EPOは司会進行を担当しました。主催者それぞれが役割分担して協働で開催し、より関係を深めました。各団体が持っているネットワークを活用できる、単体では足りないことを補い合える、各々の目的を達成しつつ、相乗効果でさらに手を伸ばせる。即ち、中間支援機能を強化することができました。

さて、いきなり出てきた「中間支援機能」って、なんでしょう？ それを「強化」するってどういうことでしょうか？ EPOの大切な業務のひとつである「中間支援機能の強化」について、右にわかりやすく説明しました。ぜひ読んでくださいね。



「中間支援機能の強化」って？

EPOには日常的にあらゆる相談ごとが寄せられます(下段の記事参照)。SDGsという言葉が広まるにつれて、相談の数も種類もどんどん増えています。地域が抱えている課題はいろいろなことが複雑に絡み合っていることが多いので、当然と言えば当然ですね。

EPOはその名のとおりに環境分野が専門ですが、課題を解決していくには他の団体や組織が協力してくれると助かります。また、課題の本質を見抜くためにも、ひとりじゃなく何人かで話し合うほうがうまくいきます。

いざEPOが相談に対応しようとなった時のために、日頃からさまざまなつながりを持ち、お互いに知識や情報、技術などを出し合っておくこと、準備を整えておくこと。それがEPOの持つ「中間支援機能」の「強化」と言えるでしょう。

地道な活動に見えるかもしれませんが、これこそがEPOの大切な根っこ部分です。

具体的には次のようなことを行っています。

- 企業や大学のニーズに応じた講演や研修。
- 団体や組織間の連携のタネとなる情報提供。
- 自治体主催の委員会の委員や審査への協力。
- 自治体と協働での事業実施。

日時: 2022年12月18日(日)13:30~15:30

場所: かがわ国際会議場(香川県高松市)

主催: 香川県・香川県地球温暖化防止活動推進センター(せとeco・かがわ)・中国四国地方環境事務所四国事務所・高松地方気象台・高松市・四国EPO

つながりをより広く、深く！「かがわ環境活動団体交流会」の開催が、将来の可能性を感じさせる。

「かがわ環境活動団体交流会」を主催し、環境に関わっている人たちと直接つながることができました。参加団体同士や一般参加者のつながりもできました。今回はなんと高校生も参加。学校で学んでいることを、活動している人たちから直接聞ける機会となり、団体さん側は、自分たちの活動を若い人に知ってもらえる機会となりました。四国EPOも、参加者のみなさん、そして各主催者とのつながりを持ったり深めたり、より密なネットワークを築くことができ、中間支援機能を強化することができました。

また、この交流会は、環境だけでなくSDGsの他のジャンルともつながる可能性を秘めています。たとえば、環境と福祉の地域課題を同時解決、なんてことができるような集いになれるといいですね。



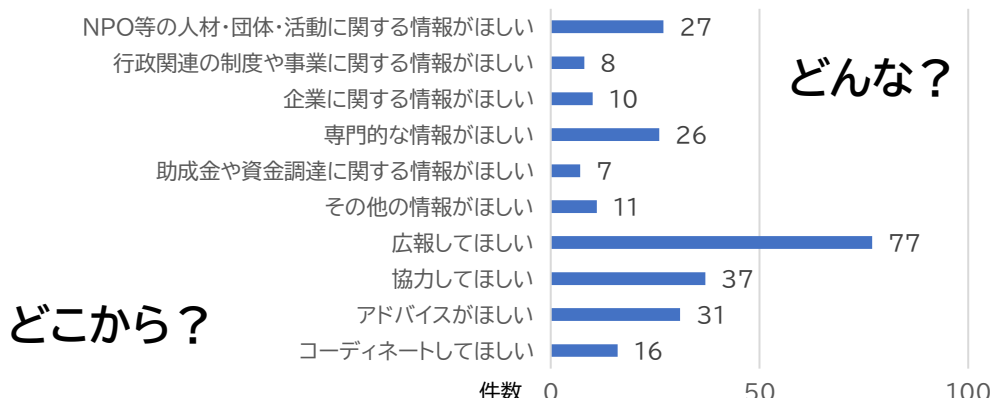
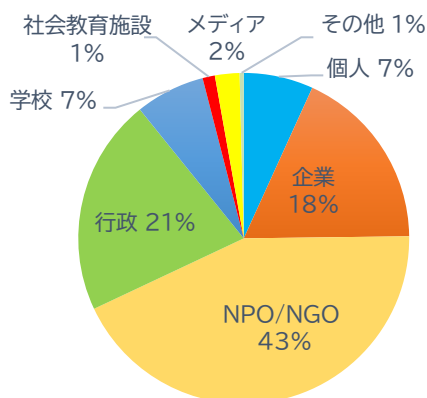
日時: 2023年2月4日(土) 13:00~15:30

場所: 香川県庁12階 第1・2会議室 (香川県高松市)

主催: 香川県・香川県地球温暖化防止活動推進センター(せとeco・かがわ)・四国EPO

2022年度も、いろいろな相談が寄せられました。

四国EPOには、電話やメール、来訪によってさまざまな相談が持ち込まれます。また、事業やイベントの準備段階の会議や実地見学で、意見交換や情報提供を行うこともあります。どこから、どんな相談が寄せられるのか、データでお見せしましょう。



知ってほしいことを、 どう発信するか。

メルマガ、
Facebook、
Instagram
でも発信中！

ネットでもリアルでも積極的に情報発信！特にホームページには力を入れています。月平均80件弱のイベントや助成金などの情報、月イチおすすめ本などを掲載。また「四国のおすすめ」(特徴のある活動の紹介記事)は、英語、中国語でも発信を行っています。

広報紙「しこくえぼ」を年4回発行！



月刊誌「コロンブス」がローカルSDGs四国を取材！ 2号連続掲載されました。

2022年6月号
四国における持続可能な地域経済社会を目指し「ローカルSDGs四国」が始動！！
2022年7月号
廃棄うどんによる「うどん発電」で地域における食の循環の確立を目指す！！
→うどんまるごと循環プロジェクト



取材の様子。

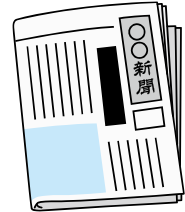
自治体主催のイベントに出展！

令和4年度環境活動展
日時:2022年10月18日(火)~24日(月)
会場:市民交流プラザIKODE瓦町(香川県高松市)
令和4年度ゼロカーボンシティ展
日時:2022年12月13日(火)~19日(月)
会場:市民交流プラザIKODE瓦町(香川県高松市)



EPO流、情報収集。

地元情報が豊富な四国四県の地方紙、そして2つの全国紙を毎日くまなくチェック。四国のSDGsに関する記事を、2022年度は既存のデータベースに4,000件以上登録し、累計約4万件となりました。



また、つながりを大事にするEPOは、いろいろなイベントなどに参加しています。そこで新たな活動を始めた団体や企業と出会い、その活動を知ることも頻繁にあります。

With... event PHOTO report

3年ぶり！ 待望の「四国ESDまつり」開催。



2023年3月21日、「四国ESDまつり」が、香川県の「善通寺五岳の里市民集いの丘公園」で3年ぶりに開催されました！なかなか会えなかったESDでつながる人たちが四国各地から駆けつけ、イベントを盛り上げてくれました。

人がつながる大切な対話の場をネットにも。

環境活動や学びに役立つ「対話の場」は、つながりを生むための大切な前提です。四国EPO内共用スペースは残念ながら提供を見合わせていますが(2023年3月現在)、イベントをオンライン同時開催にするなど、ウェブ上で参加できる場を増やしています。新しいネットワークがどんどんできることを願って。

2023年度地球環境基金助成金説明会

日時:2022年11月2日(水)18:30~20:00
会場:オンライン
主催:独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金部
協力:四国EPO

四国で助成を受けた団体の事例発表では、基金の特徴やメリットなど具体的な感想が話されました。その後、参加者との意見交換があり、これから助成を受けたい方々にとって大いに役立つ場となりました。

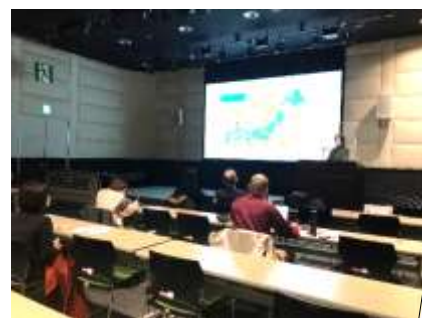


C7勉強会 市民社会や地域の思いを提言につなげよう

日時:2023年2月22日(水) 17:00~18:30
会場:情報通信交流館 e-とびあ・かがわ内 BBスクエア(香川県高松市)
+オンライン

主催:四国EPO

まだまだ聞き慣れない「Civil Society7(通称 C7)」について、リアル+オンラインで勉強会を開催。提言をまとめてG7に向け発信を行う道筋があること、国内各地をつなぐネットワークのことなど、最新情報が提供されました。参加者が地域から世界に向けて、第一歩を踏み出す場となりました。



2022-2023 theme

With

TOPICS PICK UP



誰でも気軽にESD！ 四国ESDバーチャル大学。

「四国ESDバーチャル大学」では、どこにいても気軽にESDに触れていただけるよう、オンラインで学びの場を提供しています。

今年度のテーマは「〇〇×気候変動教育」。地球温暖化をはじめとする気候変動の問題は、SDGs13番の目標にも掲げられています。今回は観光や暮らしが気候変動とどうつながるのかを知り、私たちに何ができるかを探してみました。

身近なテーマをより深く。 知ることによって変わる、毎日の行動。

◆ESD・SDGsツアー×気候変動教育

近年、「マイクロツーリズム」や「持続可能な観光」という言葉に表されるように、観光・ツアーのあり方が変わってきています。

四国にはさまざまな地域の魅力があり、ESDバーチャル大学ではESDやSDGsの学びをセットにしたツアー開発の検討を通じて、持続可能な四国について考えました。

◆暮らし×気候変動教育

気候変動への関心の高まりの中、私たちにできることは何でしょう。「暮らし」から持続可能な四国について考えることを目的とし、中でもその効果がわかりやすい「建物の断熱」について、勉強会と実践(ワークショップ)を行いました。

ワークショップでは天然木から作られた木繊維断熱材を使用。木材の利用がサステナブルで健康な暮らしの実現につながることから、気候変動教育についても話し合う機会となりました。

～ アンケートより ～

- ・これまでの暮らしを見つめ直すよい機会でした。
- ・いろんな視点を感じられて参考になるところがありました。それぞれ良いところのいいとこどりをして共有できればより良いものになると思いました。
- ・多面的な意見の積み重ねが知恵として築かれていく過程は、苦しみと楽しみが交錯している。よりよい社会をつくるのが目標になっていくと思う。
- ・諦めずに考え、できることをやり続けたいものです。
- ・断熱材から気候変動の緩和を考えるという視点は斬新と感じた。
- ・言葉だけでなく自分でやることによって難しさや大変さを知ることができた。

参加したいろいろな人の意見が、自分の考えを新しくしてくれることも。ESDとの出会いが、地域の未来、社会を変える力になります。



ワークショップの様子。

バーチャルを飛び出して。

「暮らし×気候変動教育」の回では、番外編として現場でのワークショップも行いました。断熱材(家の壁に貼ることで、外からの熱が中へ伝わりにくく、中の熱は外へ逃げにくくなるもの。冬は暖かく、夏は涼しく過ごせます。)を、実際の家屋に貼り、その働きや特徴から「サステナブルで健康な暮らし」を体感しました。



子どもたちも体験。気持ちいいお部屋ができるといいね。

◆ESD・SDGsの視点で地域の魅力を再発見！

ESD・SDGsツアー × 気候変動教育

第1回 「ツアー企画を考えよう!!」

日時:2022年10月21日(金)16:00~17:30

第2回 「ツアーの商品化を進めよう!!」

日時:2022年11月25日(金)16:00~17:30

◆暮らしは断熱でどう変わる?!ワークショップで実践!

暮らし×気候変動教育

日時:2023年2月25日(土) 10:30~12:00 勉強会

13:30~15:30 ワークショップ

場所:特定非営利活動法人どんぐり王国(愛媛県西予市)

四国のESDピープルが大集合! ビッグイベントの1日を振り返る。

ESDはSDGsにとってとても重要な役割を果たします。

地球上にあるさまざまな問題を少しでも解決するため、一人ひとりが自分にできることを考え、やってみるための学び、それがESDです。

「四国ESDフォーラム2023」では、地域をよりよくするための取組が四国各地から大集合。世代を超え、みんなで一緒に四国の未来を考える機会となりました。新居浜市の歴代教育長と市長によるリレートーク、活気あるユースの発表、地域ESD拠点の紹介など、誰もが「四国ってすごい！」を感じたイベントとなりました。



明るくてオープンな会場。発表者の熱気が伝わります。



10:30～開会挨拶 近森憲助さん(四国地方ESD活動支援センター長)

10:35～新居浜ESD for SDGsリレートーク コーディネーター:近森憲助さん(四国地方ESD活動支援センター長)

SDGs未来都市となった新居浜市。

そのベースにESDの取り組みがあることから、これまでの10年を振り返り、新居浜の未来を考える機会となりました。

- ①ESDのはじまりとSDGsアートフェスティバル 阿部義澄さん(元あかがねミュージアム館長)
- ②ESDの発展・コミュニティスクールと地域のつながり 関福生さん(新居浜市生涯学習センター長)
- ③ESD for 2030へ -SDGs達成に向けて- 高橋良光さん(新居浜市教育委員会教育長兼ESD活動支援企画運営委員)
- ④SDGs未来都市としての今後の取り組みについて 石川勝行さん(新居浜市長)

11:15～フロアとの交流 コーディネーター:近森憲助さん(四国地方ESD活動支援センター長)

11:50～講評・応援メッセージ 常富豊さん(中国四国地方環境事務所四国事務所長)

13:00～四国ユースESD×地域ESD拠点 交流会

四国各県の中・高校生と地域ESD拠点が、ESDやSDGsの取組を紹介。

SDGs達成を目指す大人とユースが交流し、持続可能な四国について一緒に考えました。

コメンテーター:柴尾智子さん(元(公財)ユネスコ・アジア文化センター、日本ジオパーク委員会委員)

四国ユースESD取組発表

進行:竹下浩子さん(愛媛大学教育学部准教授)

新居浜市立別子中学校 「共に野菜をつくり、共に未来をつくる」

徳島県立富岡東高等学校 「富東発!～ESDでつながる世界～」

香川県立三本松高等学校 「学食から住み続けたいくなるまちへ」

愛媛県立今治東中等教育学校 「桜井海岸白砂青松保存プロジェクト」

高知県立伊野商業高等学校 「夢はいの町の土佐和紙から」

発表者・参加者による意見交換・交流

地域ESD拠点交流会

進行:小林修さん(愛媛大学国際連携推進機構・教授 / 愛媛大学SDGs推進室・副室長)

地域ESD拠点とは～88か所を目指して～ 四国ESDセンター

ESD・SDGsツアーで四国の魅力を発信! 一般社団法人そらの郷 / 善通寺こどもエコクラブ

四国ESD拠点の可能性を探る! 株式会社相愛 / (特非)えひめグローバルネットワーク

発表者・参加者による意見交換・交流

15:55～閉会挨拶 常富豊さん(中国四国地方環境事務所四国事務所長)

四国ESDフォーラム2023

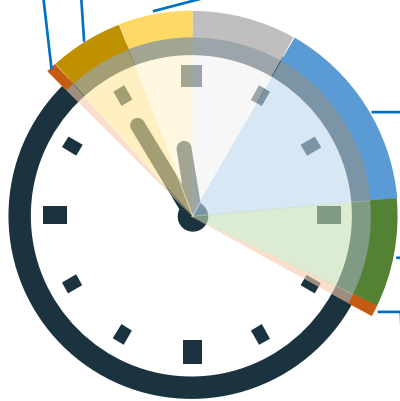
日時:2023年2月12日(日)10:30～16:00

場所:あかがねミュージアム(愛媛県新居浜市) +オンライン

共催:四国地方ESD活動支援センター(四国ESDセンター)・中国四国地方環境事務所四国事務所・新居浜市・新居浜市教育委員会

協力:四国環境パートナーシップオフィス(四国EPO)

後援:徳島県教育委員会・香川県教育委員会・愛媛県教育委員会・高知県教育委員会・ESD活動支援センター・特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育推進会議(ESD-J)



会場は新居浜市の「あかがねミュージアム」。「あかがね」とは銅のこと。地域を支えた別子銅山を大切にしている姿勢が感じられます。



参加者が発表の応援で使った「いいね!」と「超いいね!」のうち、新居浜市在住のイラストレーター konomiさんの作品。

あなたに、伝えたい。

四国ESDセンターではESDやSDGsを身近に感じてもらえるよう、ラジオやSNS、メールマガジンの配信などを行いました。

また、小学校～大学での授業やイベントへの出展などを通じて、新たな人や活動とのつながり、広がりが生まれました。

月イチ聞くなりこのラジオ。

毎月第一水曜日、西日本放送ラジオ(RNC)でSDGsにつながる活動を紹介しました。

多様なゲストのお話は新しい発見がいっぱい！ 地域の取組が世界の持続可能性につながっていることを実感してもらえたと思います。



生放送でお届け！

月イチ読むならメールマガジン。

毎月メールマガジンでも情報をお届けしました。

「今月のSDGs」では、SDGsの17目標から一つを選び、コラム形式で身近な話題を紹介。加えて今月のおすすめESD教材、ESD関連イベント・募集・助成金情報など、盛りだくさんでも読みやすい内容になるよう工夫しました。



気軽に相談できる場所として。

四国ESDセンターはESDやSDGsに関することを気軽に相談できる場所です。今年度もメールや電話、面談など、さまざまな方法でみなさんのご相談をお受けしました。

例えばこんな相談がありました。

SDGsの子ども向け講座ができる人を紹介してほしい

地元の小学校の環境教育を発展的な学習につなげたい

メディアで紹介したいのでSDGsに取り組む地域活動について情報がほしい

企業としてESDや地域課題に取り組むみたい



2022年5月
東かがわ市大内小学校
土曜授業での一コマ。
SDGsかるたで大盛り上がり。



2022年10月
かがわ国際フェスタ出展
SDGs達成には世界中の国の協力が欠かせません。
ここではさまざまな国や文化の交流を通じて、新しいつながりが生まれました。



香川型教育メソッド研究会

香川県教育委員会が運営するこの研究会、四国ESDセンターも参画し、高校の探求学習支援となる、香川らしい教育の在り方を検討してきました。

さまざまな立場の人がアドバイスをを行い、協議を重ね、最終的にその内容が一つの冊子にまとまることになりました。

冊子には現場の先生方が抱える共通課題へのアプローチも含まれています。

えひめ森林公園ESDプログラム

ESD推進拠点であるえひめ森林公園において、小学生向けのESDプログラム「ドングリと遊ぼう！」「森林のはたらきを知ろう！」「シイタケについて知ろう！」が公園がある愛媛県伊予市の3つの小学校の授業として行われました。

実施後、実践したESDプログラムが、各教科とどのように関連するかを可視化し、より充実した学びにすることを目指し、ESDカレンダー作成のサポートを行いました。先生方から、各授業の内容が含むESDの要素がどうつながっているか、タイミングはどうかなどを確認するツールとなるとの感想がありました。



各教科の関連の可視化に役立つESDカレンダー。

四国のESD拠点は現在20。88か所を目指して増殖中。

地域におけるさまざまなESDの取組をサポートする団体、それが「地域ESD拠点」です。四国では市民団体、企業、教育機関など、いろいろな組織が登録されています。四国らしく、88か所の登録を目指す毎日。

私たちの仲間になりませんか。

(県別・登録年順)



<p>株式会社ハレルヤ</p>  <p>廃棄される規格外農作物をおいしいお菓子に</p>	<p>一般社団法人そらの郷</p>  <p>世界農業遺産の暮らしと知恵を 民泊で体験</p>	<p>パンゲアフィールド</p>  <p>修学旅行における葉っぱビジネス体験と 町民インタビュー</p>	<p>株式会社井上組</p>  <p>ジェンダー平等・女性技術者の活躍</p>
<p>公益財団法人大阪YMCA YMCA阿南国際海洋センター</p>  <p>海や無人島が、 すべての活動のフィールドです！</p>	<p>高松ユネスコ協会</p>  <p>ユネスコ未来遺産「農村歌舞伎祇園座」</p>	<p>うどんまるごと循環プロジェクト</p>  <p>廃棄うどんの行方をすごろくで学ぼう！</p>	<p>善通寺こどもエコクラブ</p>  <p>よく見るとネジバナ 花の並びがおもしろい</p>
<p>新居浜市教育委員会</p>  <p>地域と共に野菜をつくり、共に未来をつくる</p>	<p>IKEUCHI ORGANIC株式会社</p>  <p>小学2年生の社会科見字のお礼状</p>	<p>株式会社平野 平野薬局</p>  <p>社用車として、小型EV車を導入！</p>	<p>NPO法人 えひめグローバルネットワーク</p>  <p>新たな仲間Bridge of friendshipと モザンビークESDを展開！</p>
<p>一般社団法人ノヤマカンパニー</p>  <p>森のようちえんのコマ(ままごと)</p>	<p>NPO法人どんぐり王国</p>  <p>里山をベースに地域と連携した 体験活動を実施</p>	<p>えひめ森林公園</p>  <p>えひめ森林公園ESDプログラム</p>	<p>株式会社タイチ</p>  <p>鯛一郎クンの生産者は再生可能な 養殖道を追っています</p>
<p>新居浜市生涯学習センター</p>  <p>新居浜生涯学習大学の受講風景</p>	<p>株式会社 土佐山田ショッピングセンター</p>  <p>日章小学校 プリの葉焼き体験授業</p>	<p>室戸ジオパーク推進協議会</p>  <p>生動物ウォッチング(コウモリの観察)</p>	<p>株式会社相愛</p>  <p>バナナトラップを使った昆虫観察会</p>

■徳島デスク TEL. 080-4035-4593

〒770-8008 徳島市西新浜町2丁目3-102 エコみらいとくしま内
開所:火曜~金曜 9:30~18:00 閉所:月曜・土曜・日曜・祝日・年末年始

■愛媛デスク TEL. 080-4999-4591

〒790-0803 松山市東雲町5-6 (特非)えひめグローバルネットワーク内
開所:月曜~金曜 9:00~18:00 閉所:土曜・日曜・祝日・年末年始

■高知デスク TEL. 080-4998-4592

〒780-0935 高知市旭町3丁目115 こうち男女共同参画センター3階 (特非)環境の杜こうち内
開所:月曜 9:00~17:00 / 火曜~金曜 9:00~18:00
閉所:水曜(第2のみ)・土曜・日曜・祝日・年末年始

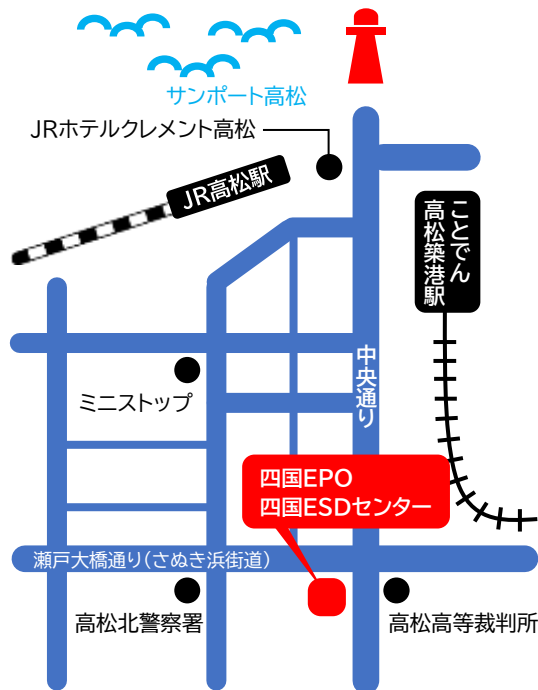
ローカルSDGs四国(LS四国)



TEL. 087-816-2232
FAX 087-823-5675
Mail info@ls459.net
<https://ls459.net/>

※住所・開所・閉所時間は四国EPOと同じです。

Facebook ▶ <https://www.facebook.com/shikokuEPO/>
Instagram ▶ shikoku_epo



- 共用スペースのご利用、資料・書籍・電子情報等の貸し出しについてはお問い合わせください。
- スタッフ不在の場合もございます。ご訪問の際にはあらかじめスタッフの在室をご確認ください。

- JR高松駅、ことடன்高松築港駅から徒歩約5分。
- バス停「寿町」下車すぐ。
- ※駐車場はございません。
- 公共交通機関等をご利用ください。